

〔資 料〕

昭和30年代の生活世界

— 新聞記事にみるアパート団地・ニュータウン・郊外住宅 —

西 脇 和 彦

Lifestyle in the Showa Era 30s

— Apartment Developments, New Towns, and Residential
Suburbs That Appeared in Newspapers —

Kazuhiko Nishiwaki

1 はじめに

「近代化」とは時代的に多義的な概念であって、その時代を限定して使用することが必要となる。そこで本稿では、あまりにも有名な表現、経済企画庁編『昭和31年度 経済白書（日本経済の成長と近代化）』（至誠堂）に記載された「もはや戦後ではない。…今後の成長は近代化によつて支えられる。そして近代化の進歩も速かにしてかつ安定的な経済の成長によつて初めて可能となるのである。」（p.42）に使用された「近代化」の意味で用いることにする。すなわちこの概念を、高度経済成長がもたらした消費水準の上昇や生活革新を包括するものとみなし、このような概念を先駆的に象徴した「団地生活」に着目することにする。この事情を『昭和35年版 国民生活白書』（大蔵省印刷局）は次のように述べている。

生活革新がもつとも典型的に進んでいる地域社会として、いわゆる「団地」をあげることができる。団地は戦後の住宅政策の一環として進められた大都市周辺における住宅公団あるいは地方公共団体、大企業等によつて新らしく建設された鉄筋耐火構造アパートなどの集合住宅区域のことであり、ひとつの新らしいコミュニティ（地域社会）を形成している。

ここの住民は俗に「団地族」とよばれており、現在全国で約100万人をかぞえる。（p.16）

また、『団地のすべて』（生活科学調査会編、医歯薬出版、昭和38年）においても同様の視点が述べられている。

新しい建築様式の中で生活する階層は、今やあきらかに一つの“勢力”として、日本社会に顕在化するようになったことは、誰でも認めないわけにはいきません。「団地族」という名はもともとジャーナリズムによって作られたものですが、今はほとんどあたりまえのことというより、特別の目で見られなくなっているようです。…

団地で日夜くりひろげられている生活は、その近代化においても、その合理主義においても、ある意味では現代日本の象徴的な生活といえるでしょう。ことに、近年の生活革新の進行によって、はげしく変えられつつある国民生活の行方は、まさに団地生活に造影されているといって過言では

ありません。いわば団地に住む人びとは“未来の日本人”なのです。（「この本を読まれる方へ」より）

本稿ではこのような視点から、団地生活をはじめ、アパート、ニュータウン、郊外住宅に関連する新聞記事を抜粋したもので、『毎日新聞』『朝日新聞』『読売新聞』の全国紙（東京版）から該当箇所を抜粋した。またその際、団地計画よりも、その生活様式や生活者の実際の姿、生活の一コマなどに重点を置いた（なお、年号は昭和を使用した）。

2 『毎日新聞』の記事から

〔急ピッチで減る都内の農地 好況で宅地に転用〕（32.4.9）

個人住宅は安い地価を求めて都の周辺地区に建てられてゆく。…特に転用のはげしいのは世田谷、練馬、足立の三区で、…練馬区役所の調べでは同区豊玉町、練馬南町、春日町、貫井町、仲町一丁目、宝町など西武、東上両私鉄沿線の交通の便利な地区では農地はここ二、三年ですっかりつぶされて市街地になってしまいあと二十年で区内の農地は完全に姿を消すだろうとみている。

宅地転用の激増と地価値上りの原因はなんといっても好景気で個人住宅の建築が盛んになっているためとみられるが、①公営住宅や大企業社宅の増加 ②首都圏整備法による緑地帯指定地の三鷹、武蔵野、田無、保谷地区で農地転用制限発令前に売急ぐ ③住宅が付近に建ったため農地の収穫が落ち農家が割のよい住宅地に転用したが ④首都圏整備法で二十三区内が将来全部住宅地となる方針なので、高値のうちに農家が手放そうとする。などが大きな要因となっているようだと都ではいっており、この傾向は当分続くとみている。

〔郊外の都営住宅 井戸枯れ続出〕（32.5.18）

水道がない郊外の都営住宅のうち練馬、板橋、世田谷、杉並、北多摩など百三十団地の井戸水が枯れ、五千戸の住民からこのほど“水が出るようにしてくれ”という陳情が都の建築局に殺到している。しかも水の共同使用から集団下痢患者も出ており、伝染病シーズンをひかえて住民の間から「安い土地をねらうだけで地質もロクに調べなかった都の住宅政策の誤まりだ」との批判の声があがっている。

<アパート>

アパートは都会人のとりで、いわば“現代の城”である。戦後の住宅難は、アパートの大量建設という方向に解決策を求めてきた。これからも土地の高度利用と生活合理化のために、住宅のアパート化はますます進められようとしている。しかし入居がむずかしい、家賃が高い、設計が悪い…いろいろと悩みは尽きない。またアパートという集団生活は入居者の生活様式さえ変えてきた。アパートにまつわる問題と波紋を特集してみよう。

（1）入居の関門（32.11.1）

庶民の夢“現代の城” 入るまではけわしい道

郊外の広い団地に、行儀よく建ちならんだ鉄筋コンクリートのスマートな四階建アパート群。それは、自分の家をもたない庶民にとって、大きなあこがれだ。そこには個人の秘密を守るのに十分なカギのかかるドアがあり、ガス、水道、水洗便所など、合理的な生活を営むのに必要な施設がある。

だが、このように便利なアパートも庶民の目にはまだまだシンキロウとしてしか映らない。それほど“アパートへの道”は遠くけわしいのである。

(2) 家賃のデコボコ (32.11.2)

あまりにも大きい開き

(3) 狭い箱の中で (32.11.3)

寸たらずの間どり 設計は限界にきた

(4) 敷地難 (32.11.4)

生まれ変わる米どころ

(5) ずさんな工事 (32.11.5)

幼い生命までも奪う “手抜き” 自慢する業者も

(6) 足りない教室 (32.11.6)

校長室もイケニエに 二部授業に逆行の恐れ

(7) 入居のカラクリ (32.11.7)

表札二つ、実は替玉

競争が激しいと、なんとか“裏口から”と悪知恵をめぐらす不心得者もあとを断たない。

(8) 「ゲタばき」ラッシュ (32.11.8)

ゲタばきというのは、一、二階など下層を商店、事務所に、上をアパートにする仕組み。…ただゲタばきの場合、住宅環境として騒音、ばい煙に悩まされる、日当たり、通風が悪い、などの欠陥がある。これをどう解決するかが今後の大きな問題であろう。

(9) 高い家賃 (32.11.9)

“安く入る”のは遠い夢

貧乏国日本では“安い家賃の住宅”はまだまだ夢物語りに過ぎないということらしい。

(10) 団地作り (32.11.10)

バラエティーに苦心 “芝生に立木”は遠い夢

(11) 固定資産税問題① (32.11.11)

“入居の心得”のウソ

(12) 固定資産税問題② (32.11.12)

家賃不払騒動で脚光

(13) その歴史① (32.11.14)

「同潤会」が鉄筋の1号

(14) その歴史② (32.11.15)

不燃・高層化たどる 新傾向ニュー・タウン

(15) お手盛り宿舎① (32.11.16)

“家賃”民間の十分の一

役人の特権？豪華な部屋

(16) お手盛り宿舎② (32.11.17)

上役は鉄筋、平は木造

(17) 豪華版 (32.11.18)

海望み、銀座に10分 家賃とも“最高”の生活

(18) 子供① (32.11.20)

役に立たない遊び場
幼児の性質を無視した設計

(19) 子供② (32.11.21)

力を合わせてお掃除

(20) 子供③ (32.11.22)

周囲に気を使う性格
よくできるけれど線が細すぎる

(21) 子供④ (32.11.23)

父兄たちさえリード
効果あがる校外活動

(22) 虚栄の城 (32.11.24)

テレビで夫婦ゲンカ ついに受像機なしアンテナ立つ
ボーナス期に一軒でもテレビや電気洗たく機を買うと、戸ごとに買入れ競争が始まるなど、集団住宅に虚栄が生む対抗意識はつきもののようだ。

(23) アパート病 (32.11.25)

白い壁がのしかかる!! 密閉された箱の中の「孤独」
新しい集団生活には新しいモラルが必要。アパート居住者は生活革命をしいられているのだ。

(24) 近くの商店 (32.11.26)

すさまじいお客争奪 奥さんのいうことは絶対
千戸以上もの大団地ができると、アレヨという間にそばに商店街が生まれるのだから、アパートは現代の怪物、いや魔法の城に違いない。

(25) 新しい暮らしへ (32.11.27)

住民の理解の上に “強制” では育たぬ自治会

(26) 未来図 (32.11.28)

ほど遠い“欧米なみ”
アパート生活を住みよく、楽しくするためには新しい暮らしのエチケットが必要だし、これまでの住宅観も改めなければならない。一戸建の日本家屋での生活様式をそのままアパートに持ち込めば無理が出てくるのは当然。

[アパートの子供の性格診断] (33.2.5)

親の見栄が影響 知的だが集団行動はダメ

“あれはアパートの子だよ” などということ聞きます。一戸建ての家とは違ったアパートという環境が、違ったタイプの子供を育てるのでしょうか。アパートはこれからもどんどんふえてゆきます。“アパートの子”という新しいタイプの子もふえてゆくわけですが、その性格がいわゆる“子供らしさ”から離れてきているというのでは問題です。

〔鉄筋アパート（下） 団地の問題〕（33.3.7）

環境整備を左右する人間関係

近代的なアパートのよさは他の人からのぞき見されない、本当に独立した生活がいとなめるということだといわれます。きゅうくつな間借り生活や同居生活から移ってきた人は、これでいままでのわずらわしい近所づき合いから解放されるという喜びがまず起きるようです。が、現実には以前ほどではなくても、やはり多くの人が住んでいる以上、つき合いは必要になってきます。“他人にかかわりなく”という気構えのため入居したはじめの機会にあいさつしそこなったばかりに、その後階段の上り下りで顔を合わせても、なんとなくあいさつができにくくなり、気まずい思いをしなければならないという例もかなりあるそうです。

〔あなたをねらう！！魔手〕（33.5.21）

夜道を一人歩くな 心のネジと身だしなみ

住宅地（杉並署）の場合 盛り場（浅草署）の場合 さびしい郊外（練馬署管内）

〔アパート団地の子供たち〕（33.10.15）

独自性が少く神経質 たまには野や山へ 大自然の中でのびのびと

〔ウケに入る団地商売〕（33.11.18）

東京の周辺は住宅公団、協会、都営アパートなどのアパート群で小さな“人工の町”が急速にふえてきたが、これら団地めあての新商売もなかなか盛んだ。出張販売はもちろん、電話の取次ぎサービスが店の繁盛のもとになるというから、ちょっと頭をひねれば、まだまだ開拓の余地はありそう。そこで変わった“団地商売”を拾ってみた。

“移動文化教室”もそのひとつ。五十内外の子供用座席を用意した大型バスで窓に暗幕をおろした即席映画館。漫画、ニュースなど三十分ほど上映して料金は一人十円。

富山の菓売りをまねた菓子の行商もある。カン入りのダ菓子を各戸にくばり、一ヵ月おきに集金し、また新しい菓子をつめてゆく。

野菜類は八百屋が小型トラックで団地に乗り込む。

会社のご主人へ奥さんからの話は公衆電話で連絡できるが、逆にご主人や友人からの意志を伝える方法は足を運ぶほかはない。そこで“今晚は銀座で食事しよう”なんていうときはこの売店で受ける。売店では用件の簡単な内容と相手方の名前を紙片にメモし、そのつど各戸の郵便受けにさししておく仕組み。…また団地内の芝生の草刈り、共同ゴミ箱の清掃作業には地元の年寄りが雇われる。多くは各家庭で月百円程度を出し、管理人を通じて雇われる仕組み。…また管理人もひとつの新しい職業。百戸ないし五十戸を受持ち家賃の徴収、団地内の文化活動、主婦の内職などのあっせん、無料案内所、無料駐車場の管理など家主と居住者の間の橋渡し役として、立派なサラリーマンである。

〔工業地帯の鼓動（1） 煙突のない工場〕（34.1.13）

田園に大センター

南武線沿線（小向以北）から立川、国分寺、吉祥寺付近にかけてのこの地区に電子工業の工場がぞくぞく進出し“電子工業のセンター”になるのも近いといえよう。…これらの明るい装いは黒く

よどんだ既存の工業地帯とはまったくの好対象である。

だが、こうしたウラにもいろいろ問題が横たわっている。まず埋立地の工場建設と違って、農地がどしどしつぶされてゆくことだ。農民は一時にまとまったカネが入るので大して反対していないが、農林省は渋い顔をしている。…また住宅地もこの周辺に伸びてきているので、これらとの摩擦をどうするか、その“交通整理”が将来の問題として残されている。

[ビル・ラッシュに押されて 都心の学童減る一方] (34.2.15 夕刊)

先生置去り 郊外へはみ出す

この人口流出は銀座、京橋などの盛り場ではビル建設のたびに二、三軒ずつ住宅が消え、また日本橋、神田などの商店、問屋街では店舗の拡張や、住みにくい都心を避けて商店主が郊外に家を建て、昼間店に通勤するといった傾向があるからだ。

この先生の定員過剰はことし初めて現われた現象で、足立、葛飾、江戸川、練馬など周辺区が二部授業、先生の不足に悲鳴をあげているのとはまったく逆の傾向だ。

[ニュータウンぞくぞく誕生] (34.7.12)

こつ然!!野っ原に 団地族すでに百万

以前は一面見渡す限り緑の原野だったそのどまんなか、いつできたのか、白亜のしゃれたアパート群が見事に立並んでいる。…東京、大阪、名古屋、福岡といった大都市の周辺には“現代の城”——団地がぞくぞくと生まれている。

団地ッ子、団地商売、団地値段、団地マダム、団地病、団地犯罪などの流行語がつぎつぎ生まれてきているようにいまや団地は私たちの生活とは切っても切れないものになりつつある。

[犯罪に自衛する団地族] (35.6.19)

“人妻殺し”が教訓 余りにお互いがヨソヨソしすぎた 鉄ドアも壁も安心できない

バラバラだった団地族が連帯意識にめざめたことは、犯罪に対して、目に見えないカベを作ったものとして期待されている。

[住いのくふう 建築の手引き 団地生活のよしあし] (35.11.6)

設備はよいが味気ない 近所づきあいから解放 生活態度によって長所にも欠点にも

台所、ガスプロ、水洗便所など、一応の文化生活が味わえるという家庭もあります。…アパート特有のカギひとつで外部としゃ断される、いわば自分だけの生活ができるわけで、このような生活では隣近所との交際は、大変狭くなり、屋外では立ちばなし程度で、そう親密度がないということです。

ただ子供のある家庭では子供間の交際から親たちの交際がはじまるということはありませんが、…

団地は郊外が多く、都心から遠くに建設される傾向で、通勤という問題もサラリーマンには考えなければならないことです。それに、団地は建設がおわると直ちに入居になります。…コンクリート建築は、どうしても、一、二年は湿気が多く、赤ちゃんや老人の持病などに悪影響があります。

[“私の一票”を考える 名古屋] (35.11.11)

団地族は政治不感症 日々の生活の充実だけで手いっぱい しかし新しい社会意識も

団地族は生活意識は高いが、政治には無関心だという。一般的なこの見方はある程度真実だ。…会社員、先生、役所勤めのホワイト・カラーで、生活への意欲ははげしい。しかし月収はかぎられているからヤリクリは苦しく、日々の生活を充実させることだけで手いっぱい。他人の生活などかまっていられない、という考え方が決定的になる。

政治への関心はうすいが、生活に響いてくると考えこむ。志賀団地の婦人会員は口をそろえて「池田さんになってから物価は上がるばかり。所得倍増なんて夢の夢」とシンラツに批判する。

団地族は文化水準も高い。これからの社会の中心となっていく階層だ。新聞やテレビを通じて社会への関心もしだいに高まっている。現在の生活様式は、団地族を古い日本から切り離した。あすはこのなかから新しい社会意識が生み出される。そのとき政治は団地の女性たちの冷厳な鏡の前に、いつわりのない姿を出すであろう。

[わが国土 (104) ふくれる東京] (35.12.23)

破裂寸前の風船さながら ビルに追われる都心住宅

このようにビルが都心に集中した結果、人々の住まいは次第に周辺地区に押しやられることになった。…都心の減少に比べて、周辺区や市、郡部の人口の伸びが目立つ。…このように中央が薄く、周囲が厚いふえ方は“ドーナツ型増加”とよばれ、都市集中化の特徴の一つとされている。都心の外側だった五反田、渋谷、新宿、池袋も、いまや内側だ。この意味でも、副都心計画が真剣に検討されなければならない段階にきている。

[団地族 その生態] (36.2.5 夕刊)

室にこもり勝ち 勤め帰りに八割が“道草”

“団地族の生活と意見”というテーマで日本住宅公団が東京都北多摩郡田無町のひばりヶ丘団地と同葛飾区青戸町の青戸団地を対象に行なった調査結果がこのほどまとまった。

[団地族の“足”自転車] (36.3.26 夕刊)

団地の一日は、自転車にはじまって、自転車に終る。五階から、二階から、エッチラ、オッチラかつぎおろし“パパ、いってらっしゃい”。朝風をきる快さはあっても十五分間ペダルを踏み続けるとさすがに汗ばんでくる。置場で、スキ間をみつめて押しこむのもひと苦勞。帰りには奥さんのメモを片手に、八百屋から魚屋へ。疲れた身体でペダルを踏んで、再び部屋までかつぎ上げるのは相当な重労働である。

うなぎのぼりの地価に追われて“団地都市”の郊外分散は急ピッチ。バスも通らず、駅まで歩くほかはない団地がめっきりふえてきた。といって、自家用車はまだ望めない。そこで安くて便利な自転車…。

<団地日記>

昭和三十年、団地とよばれる公団アパートの群が登場して六年、いまでは全国の大都市周辺に二百五十の団地、十五万戸の住まいが誕生しました。そしてなお公団アパートの建設予定はふえてゆきます。団地の増加につれて、住まいの広さ、設備、交通状態など改良されていくと同時に“団地族”とか“団地階級”などの言葉も生まれ、…一般の目が団地を何か特別な社会として見る傾向にある、といってもいい過ぎではない面もあります。ここで団地に住む人たちの本当の姿を写しだし、

新しい住居様式に対して、地道な意識を育てていきたいものです。

(1) 気づかずに干渉 身近すぎる隣人の私生活 (36.4.17)

職業はサラリーマンがほとんどで、収入は約二万円から三万円台といったところでしょうか（家賃は収入の一八パーセントが基準になっています）。

団地に住む人たちのものの考え方 ― 団地気質といったものが傾向づけられているようです。

(2) 住宅困窮時代の嘆き 何回申込んでも当たらない (36.4.18)

(3) 育てたい“恵まれた友人関係” せますぎる悩みでモヤモヤも (36.4.19)

いままであいさつもしなかった人たちがコーラスで知りあいになる。ここまではいいが、毎週コーラスで顔なじみになると、その家庭とゆききするようになる。…お互いにそのうちのようにすがよくわかってしまう。ところが人間には他人には知られたくないことだってあるし、こんなことが子供の学校のことなどをきっかけに、モヤモヤしたものに変わってしまうこともあるかもしれない。

(4) “あの奥さんのお化粧は…” こんな他人の生活への干渉は困ります (36.4.20)

(5) 苦勞する部屋の狭さ 家族間の協力が必要だが (36.4.21)

(6) 不便を解消してくれた集団電話 (36.4.24)

最近集団電話がお目見えした団地があります。これまで、団地の設備でいちばん不便なことといったら電話連絡が容易にできないことといえないでしょうか。個人で電話をひいている場合はともかく、一般の家庭では電報を利用している場合が多いようです。しかも団地は都会から離れた郊外に多いため、当然、居住人の間から集団電話の新設が望まれていたものです。

ふつうの電話と違って交換台を通るようになっているので、ダイヤルはついていない。

(7) 青春の仲間がない 小さい子が中心の世界 (36.4.25)

(8) 外の仲間とは遊ばない 自分たちで“社会”を作る団地の子供 (36.4.26)

団地内の子供と団地外の子供とが対立しがちだということです。

(9) 開業医 「薬局」は食堂と兼用で (36.4.27)

とくに部屋の使い方に頭をなやます

アパートの開業医。押し入れを診察ベッドにあてている

(10) 買物 よりよい消費生活へ (36.4.28)

団地は郊外にできるため、商店は周辺にない場合が多くなっています。

団地には車の出張販売もやってくる。

(11) 年より グループを組織 茶話会や各地の見学でケッコウ楽しい日々を (36.5.1)

(12) 団地気質 少しのムダもはぶく 計画的で着実な経済観念 (36.5.2)

(13) ヘルパーの目から 多い隣近所への苦情 集団指導の機会はわずか (36.5.3)

(14) 十年選手 人のうわさに乗るな (36.5.4)

いい意味での個人主義が必要です

親同士はりあう意識が出やすいこともあげられます。よくいわれるピアノのけいことか、絵のけいこ、進学問題など親の競争心を無意識のうちに子供にまでおよぼしてはいないか、という例がたしかにみられるのです。

<団地日記余話> [“もう一間ほしい” 将来予想される大きな悩みの一つ] (36.5.10)

長く住みたくない人もいる

多くの団地は、都心から離れた郊外にあるため、通勤に一時間半もかかる場合が多くなっています。

団地とその周辺地区との問題もありました。畑の中にできた団地、工場地帯の中にできた団地があります。団地入居者は、入居資格として、一定の収入以上という線が決められています。そこで生活程度が同級のサラリーマンが多くなっています。ところが、一步団地を出れば農家、工場労働者のうちが多い、といった団地では、団地で一社会を形成し、外部の者との交流を断してしまう結果になり、団地と周辺地区との調和がとれなくなっています。これが子供の世界にくると表面化し「学校内で団地の子と土地の子が対立している」というケースや「暗くなってから、土地の子が団地内のブランコをこっそり利用する」ケースが聞かれました。

[団地の人の交際と生活 東大講師綿貫譲治氏の研究から] (36.6.15)

家庭中心的な考え方 “つきあい” には二つの型

大別すると①つきあいが少なくてよいというタイプと②つきあいが多くて楽しい、というタイプの二つにわけられます。①はトビラーフで孤立できるというイメージをもっていて、プライバシー（私生活をのぞかれたくない）の権利をおかされない生活に適応している場合です。②は社交型の場合です。そして多くの人が、この二つのタイプのどちらかにイメージをもって、一応満足した団地生活を送っているようです。

一口にいえば近代的、合理的な生活を考えている人が多くなっています。非常に家庭中心であり、生活を楽しもうとしています。…政治的な意見も比較的若い世代のホワイト・カラー族が多いためか、革新系支持が多いようです。

[ダンチ族の食生活] (36.7.18)

社団法人、国民生活研究所…はこのほど“公団団地居住者の生活構造”という報告をまとめた。…さすが“ダンチ”族の典型だけあって食生活は普通の勤労世帯にくらべ、はるかに水準が高く、衣食住のバランスがとれていて、そのうえ地域差がなく画一化されているというのがその結論だ。

「主食費」が安い 魚より肉がお好き バターをよく使う 酒や菓子もふえる

食生活近代化率 生活水準が上がれば副食（動物性）ふえる

外食も多い 収入に比例して

[装いをかえる多摩丘陵] (36.11.12 夕刊)

東京の“離れ座敷”も、にぎやかになったものである。多摩丘陵－武蔵野の名残りをとどめるこの丘に、いまはオートバイがはね回る。動物園あり、ゴルフ場あり、遊園地あり…。

首都圏にのまれて、宅地造成も急ピッチ－丘は、日ごとにけずりとられ、赤茶けた地ハダをむき

出しにしてゆく。“離れ座敷”は、家族団らんの“居間”に“遊び場”に装いをかえている。

〔団地生活のカルテ〕(37.11.11)

夫婦 職場のうさは持ち帰らないこと

出産 高層ほど流産が多い 階段の昇降にムダをはぶくこと

育児 「支配過剰」のケースも シツケは押しつけないこと

〔首都圏構想をさぐる(2) “人口分散”の矛盾〕(38.1.17)

衛星都市 ほとんど東京通い かえてラッシュに拍車 ベッドタウンは伸びる

神奈川、千葉、埼玉の周辺県にまで住宅がぐんぐんひろがっている。だが、せっかく郊外に移った人々も、朝になると働きアリのように、都心のオフィス街目ざしてどっと押しよせる。すさまじい通勤地獄。「東京の膨張を防ぎ、周辺の衛星都市に人口を分散させる」と威勢のいいアドバルーンをあげて五年前にスタートした首都圏整備計画は、まだ効果をあげていない。むしろのほうずにベッドタウンをのばし、無秩序な市街地をひろげているにすぎない。

〔新しい日本(18) 大阪府 千里ニュータウン〕(38.4.28)

丘陵に3万戸、15万人の町

一千億円かけた“実験室” 緑の中、世界に誇る住まいの国

きのうまでウグイスやヒバリがさえずっていた丘陵も、みるみるうちに姿を変え、谷が埋められてゆく。

住区の中心地には、明るいふん囲気のショッピング・センターが開店、地区にも“センター”が設けられるが、この規模は大きく、センターの建物は地上五階から十階の高層ビル。なかにはサービス業務、役所の出先機関、デパート、劇場、レストランなどもふくまれ、私鉄電車、地下鉄、バスのターミナルもかねることになっている。

〔団地に“洗たく革命”〕(38.5.8)

「早く安あがり」と好評

セルフサービス・クリーニング店 米国の機械を輸入してお目見え

洗たくから乾燥まで四十五分で仕上げる米国製の完全自動式貸し洗たく機による「セルフサービス・クリーニング店」が三日から東京の日本住宅公団赤羽台団地(3197世帯居住)に開業しました。

乾燥まで自動式に おむつなども便利 サービス係が指導 市価の半額ですむ

〔意外にもろい団地の防犯〕(39.3.16)

はいられたら“密室” 他人は他人 団地気質にもスキ

チェーンつき錠を 警視庁が注意よびかけ

カギさえかけておけば、いつもたくさんの隣人たちの目が光っているし、団地住まいは安心だといわれていた。しかし、…“現代の城”などといわれる団地が、からめ手からの犯罪に対し、意外なほどもろいことを裏書きした。犯人の手口もしだいに巧妙さを加え、団地はもはや犯罪無風地帯ではありえなくなっている。

団地族には共かせぎ夫婦や独身者が多く、長時間留守になるのも犯人のつけ目。

〔悩む三多摩（１） 人口津波〕（39.4.6）

追いつけぬ教育施設 「ひばりヶ丘団地」の威容のかげに

三多摩 — 東京でも中央部から西寄りの地区 — この武蔵野の台地は、いま人の波、人の流れに埋めつくされようとしている。無秩序にふくれあがった首都が、ひとまわり大きくのびたのだ。農村が都市に、都民の台所がベッドタウンにと、その変容はめざましい。ただ、あまりに変化がめまぐるしすぎて、道路や学校、住宅など環境整備がともなっていないのが現実の姿だ。

団地族にとって、それらにもまして不便なのは、団地が保谷、久留米、田無の三町にまたがっていることだ。…公団、都営住宅など団地が久留米町に11、保谷、田無町にはそれぞれ40近くもある。

<団地>

（１）針の穴をくぐって（39.11.17）

数十倍の競争率 喜びの後に多くの問題

東京都心への通勤には時間のかかる神奈川、埼玉、千葉など郊外の団地を管理する関東支所でも38年度の応募状況は54.3倍。東京都住宅公社の場合も33.6倍といずれも“狭き門”であることは変わりありません。…“団地住宅に入居するのは、ラクダが針の穴をくぐると同じほどむずかしい”と途中であきらめてしまった人、さらに“団地にははいりたいが収入が足りない”と嘆いている人もたくさんいるはずなのですから —。

ところで、私たちの話題はここから始まります。突破した狭き門。夢のようなよろこび…。だが入居したその日から、実にさまざまな問題がおし寄せてくるのです。

（２）１DKに住んで（39.11.18）

子供もパパも私も 狭くてゆううつ

入居時には40％近くを占めている夫婦だけの新婚世帯に代わって、１－２年後には夫婦と幼児から成る家庭が35％以上にも急増するのですから —。

（３）家族のプライバシー（39.11.19）

カーテン越しの個室 悲しい制約 つい夜ふかし

年ごろの子供を持った親はそれぞれに個室を与えることができないので頭が痛い。窮余の策がカーテン仕切りだ

（４）壁に耳あり（39.11.23）

聞こえる寝室の音 床の防水を怠る 苦情のかずかず

（５）白いカベのノイローゼ（39.11.24）

わびしい色に疲れる “私の家”の感じがほしい

団地に住む人を、いわれもなくゆううつにしたり、ノイローゼをもたらしたりする原因は、画一的な部屋の構造や、冷たく人を圧する感じの白いカベにある、という説があります。

（６）主婦のカルテ（39.11.25）

早・流産、カゼに関係？ 生活様式の影響は調査中

(7) 公害 (39.11.26)

バイ煙・騒音の悩み 交通便利の団地の苦情

不特定多数の工場が排出するバイ煙、有害ガスが風向きや気象条件によって団地に流れこんでいるとみられる…

団地の公害問題はまさに日本の政治の縮図ということができましょう。

(8) 公共心 (39.11.30)

つい“自分勝手”が 共用物の簡単なルール守らぬ人も

(9) 主婦のレジャー (39.12.1)

家事からの解放感と ストレスの解消へ

スポーツだけでなく、日本舞踊、三味線、お茶、創作人形、ピアノ、コーラスなど趣味に打ちこむ人もいます。

(10) 団地夫人のアルバイト (39.12.2)

半数は希望している

都の調査では働く目的は①子供の学費補助のため(32%)②余暇の利用(28%)③品物を買うため(23%)の順となっています。…もしも団地夫人イコール有閑マダムという見方があるとしたら、それはいささか見当はずれというものでしょう。

(11) 保育所がほしい! (39.12.3)

共かせぎ最大の悩み 東京東久留米団地で個人保育をするKさんは「奉仕的な気持がなければやれない」という

(12) 幼児教室 (39.12.7)

“何でも自分で”の習慣 悩みは場所や設備、資金

(13) カギッ子 (39.12.8)

小学校低学年の子供預かる 学童保育クラブ誕生

(14) 小、中学生の体力・学力 (39.12.9)

たくましが不足 成績はいいのに思考力が弱い

典型的な都会型体位の団地っ子は、特に腕の力が弱く持久力が足りないといわれている

(15) 団地っ子(あそび) (39.12.10)

団地内の公園で遊ぶのは比較的低学年の子供が多い

〔児童心理学者〕早川元二さんの意見ー。…ちょっと足をのばささえすれば、都会では失われてしまった豊かな自然にも接することができる。このうへは高学年の子のためにへんに頭を使わないで、野球のできるようなやや広いあき地と子供のための集会所、図書館を用意したらよい。

(16) 団地っ子(おけいこ) (39.12.14)

多忙・タレントなみ 学校全体のことは見落としがち

団地のママは教育熱心な人が多い

(17) つき合い (39.12.15)

“深入りしない”が多い

まだ洗練されない個人主義だが 「プライバシーを守るルール」のめばえも

団地のつき合いのはじまりは“子供にひかれて…”。子供のない人は三味線や踊りなど趣味で結ばれることもあります。ふつうは子供がきっかけで始まったつき合いが圧倒的。…自分の意思ではなく子供にひかれてはじまったつき合いは、やはり消極的ということなののでしょうか。

(18) その気質 (39.12.16)

“ミエ”と“中傷”の生活 「とんでもない」と反論する声も 要は話し合いに欠ける

(19) 物価高とたたかう買物対策 (39.12.17)

主婦たちが「生協」結成 来春保育園誕生の夢実現

(20) 団地サイズてんまつ記 (39.12.21)

将来を見越して 案外とびつかない

団地付近の家具店では、団地サイズの売り込みが目だつ

(21) 防犯 (39.12.23)

“近隣協同”の少ない盲点をつく 白昼に堂々と空巣が侵入

犯人は、…玄関のドアは敬遠して、防備の弱いベランダ側ばかりを集中的にねらっていること、中・高層アパートの一階ベランダは地上一・二メートルぐらいの高さなのでよじのぼることも容易。

空巣にねらわれた団地のもう一つの共通点は、交番のない団地が多く、すみずみまで警官の目が届いていないということ。

(22) 団地夫人七年の歩み 文集「べらんだ」から (39.12.24)

はじめは一人で悩み やがてみんなで考え

(23) たりない教室 (39.12.28)

校庭にプレハブ校舎 用地も財源もないいづくし

学童たちに「パイプ教室」と呼ばれるプレハブ校舎、校庭にはもう増築の余地はない

このほかにも保育所、幼稚園、保健所、交番……とないいづくしの団地からの要求は絶え間もありません。

(24) 駐車をめぐって (39.12.29)

足りない空地 貨客車より乗用車の優先駐車を望む声が多い

もともと団地のマスタープランには駐車場は予想されていなかったもので、ギリギリまで空地を利用したとしても、全車収容はとうてい不可能。

(25) 仮のすまいか (39.12.30)

夢みるマイ・ホーム 根づかず、連帯感も薄い 反対に“気苦労ない”の声も

(26) 最終回 参考にしたい英国の場合 (39.12.31)

公害のない工場がそばに 生活の大半がニュータウンの中で

日本の団地に当たるものは、イギリスではニュータウンと呼ばれます。…ニュータウンが日本の団地とちがう点は、町が住宅群だけで成り立っているのではなく、工場が誘致されていること。つまり生活の大半がその中で処理できるようになっている点です。

[近頃はイヤな顔 公団住宅] (40.3.9 夕刊)

出費が多い“荷物” 「無計画な進出お断わり」

“公団住宅の進出お断わり” — という動きがあらこちらで出てきた。…千葉、神奈川、埼玉の三県が今後同步調で、公団の無計画な団地造成に反対する態度を打ち出している。

団地がきらわれだした最も大きな理由は、学校、街路、公園、上下水道などの公共、公益施設の整備が追いつかないという話だ。

[宅地造成これでいいか(上) スプロール現象] (40.6.29)

「自分の土地、家がほしい」という小市民の夢をのせて、新興住宅地が郊外へ郊外へと広がっていく。山はけずられ、沼や谷間がまたたく間に埋められる。きょうもあすも地響きを立てて動くブルドーザーの姿は力強い建設譜でもあるが、その下には危険な落とし穴がポッカリ口を開けている。

住宅問題、都市問題専門家の間で“スプロール現象”という言葉がある。スプロールとはちょうどカイコが桑の葉を食いつぶしてゆくように、新興住宅が都市周辺部に無計画に進出してゆく状態をいったものだ。

[宅地造成これでいいか(中) まかり通る違反] (40.6.30)

売り逃げの業者も 買う前に十分調査して

いま郊外住宅地は駅と駅の間から発展していく。駅前の一等地は田園のまま。目玉が飛び出るほど地価が高いからだ。

[それでも団地住まい 東京江東区の日本住宅公団大島団地の場合] (40.7.31)

青い空を海とまちがえた子供もいる

ひどい夜中から明け方 暑いのに窓しめて暮らす

近所の小学校 校庭に出ず授業中もマスク

[1世帯1住宅の夢] (40.8.26)

郊外へのびる傾向 都市の周辺では宅地造成が急ピッチで進んでいる(神奈川県下で)

<団地このごろ>

(1) もう、おことわり (40.11.26 夕刊)

学校は…上水道は 重い公共負担なげく地元

団地…このことばが誕生してから、早くも十年近い。…武蔵野の緑が白いアパートの列に化けるたびに“集中”から“分散”への作業は進む。そして、団地をめぐる生活の絵模様は、人々の意識を、いや行政のあり方までもいやおうなしに変えていく。

案のじょう公共負担がどっしりとかぶさってきた。まず学校。団地の子供のために小学校二つ、

中学校一つを公団が建ててくれたが、むろんタダではない。

(2) 内職は花ざかり (40.11.29 夕刊)

世間体考え申告はわずか

(3) 待ち遠しい入居通知 (40.12.1 夕刊)

落選32回 条件付きの無抽選 ただし、無抽選組といっても無条件にははいれない。抽選組の当選者で辞退する人がないといけないのだ。

(4) 越境通学 (40.12.2 夕刊)

学校は新設したが… 「生徒がバカに少ない」

(5) 都営は天国 (40.12.3 夕刊)

都心で…安い家賃 3割が“収入”の超過

(6) 陸の孤島 (40.12.4 夕刊)

都心の電報…一昼夜 学校、交番ないないづくし (千葉市の東郊, 大宮団地: 筆者註)

(7) 静かなブーム (40.12.6 夕刊)

団地新聞 発行十万越すのも

東京周辺には“団地新聞”“日本だんち新聞”“夕刊・日曜だんち版”“月刊・団地”などいわゆる団地新聞は花盛り。

(8) 売れない工業団地 (40.12.7 夕刊)

不況で期待はずれ 誘致市町村もガックリ

(9) 不動産屋の甘い宣伝 (40.12.8 夕刊)

「そばだから便利…」 むらがる民間住宅

団地を“核”にし、そのまわりに“衛星”のように群らがる住宅 — こんな現象は埼玉に限らず、神奈川や千葉でも目だってきた。…団地のまわりのこうした衛星住宅群は、都心からの団地の半径がのびるにつれて広がる一方。おかげで周辺県の人口はこのところふくれっ放しの“ドーナッツ型”現象を示していることは十月に行なった国勢調査の集計でもご存じのとおり。

これを裏書きするように不動産屋も急増ブーム。

団地におんぶした形の“アベック”住宅は跡をたたない。

(10) 都心を見直そう (40.12.9 夕刊)

高層建物に夢かける

通勤距離もどんどん伸びた。片道一時間圏はアッという間に突破、いまや一時間半ぐらいのところでない、オイソレと土地が見つからない状態。こうした団地に便乗して、民間の宅地造成もネズミ算式にふえた。そして殺人的な通勤ラッシュ。通う人もたいへんだが、国鉄、私鉄など“足”の方も悲鳴をあげた。

3 『朝日新聞』の記事から

[ニュータウン 光ヶ丘公団住宅] (32.2.2 夕刊)

共同施設が特徴 難点は都心に遠いこと

常磐線南柏駅から歩いて約二キロのところに、日本住宅公団の集団住宅“光ヶ丘団地”がこのほど出来あがった。九四〇戸からなるこの団地が、これまでの集団住宅とちがうところは団地内に小学校、集会所、買物センター、診療所、倉庫、市の出張所、簡易郵便局などの総合共同施設が計画されている点だという。公団ではこれを“ニュータウン”とよび、今までにない新しい試みといっている。

[練馬野にお札の山?] (32.2.8)

大根は不作だが 住宅ブームに酔う農家

練馬野に札ピラが舞っている — といえばちょっと大げさだが、練馬区の農家は住宅ブームに酔っているようだ。練馬、石神井、大泉の三つの農協合せての預金高はこの一年間で二倍になり、八億円を突破、練馬農協は都内一の金持ち農協になった。…こんな大金が農家の手に入った理由は、なんといっても住宅ブームが第一の原因。

各農協の話によると、つかんだ金で事業をはじめたり、投資したりするお百姓さんはごくまれだとのこと。…つまり現金はつかんだものの、その使い方が分らず、思案投げ首というのが実態のようだ。

[鉄筋コンクリートアパートの衛生学] (34.1.21 夕刊)

住宅公団をはじめ、公営、個人経営、会社の社員住宅など、鉄筋コンクリートのアパートが、ぞくぞく建てられた。近代的設備が整い、衛生面からみても、水洗便所や合理的な台所、ゴミなどの処理に便利な点などの利点がある。だが一方では、「換気が悪い」「湿気が多い」などという声もあり、これが健康に悪いのではないかという心配も出されている。

換気…炭火、練炭などは禁物 使い易いガスストーブ 換気用小窓はなるべく開けておく習慣をつけたい。風の無い夜などはとくに注意がいる。

湿気…カビる押入れ夜具もぬれる コンクリートアパートは、できてから一、三年はコンクリートが十分乾燥しないため、とくに湿気がひどい。

騒音…アパートでは、騒音を気にする人が少なくない。隣家の音などはそれほど聞えないが、階段をのぼり降りするゲタの音や玄関の戸の開閉の音、水洗便所の水の音など、固体音（固体を伝わってくる音）といわれているものが一番問題で、これは防ぎようがない。少なくともアパート生活ではゲタばきをやめるとか、玄関の開閉をしずかにするなど、住む人たちがお互いに気をつけるのはかない。

[モダンだが苦情しきり 公団のマンモスアパート] (34.2.12 夕刊)

隣の物音がツツ抜け（晴海） 押売りや浮浪者に手を焼く（晴海・西長堀とも）

[団地に“取りつき電話” まず来月荻窪、阿佐ヶ谷で] (34.7.9)

団地に住む人びとの便をはかって、わが国では初の試みだという“取りつき電話”のサービス・

ステーションが近く都内に誕生する。

団地内のサービス・ステーションに数個の赤電話を置き、メッセンジャー・ボーイが外からの電話を居住者に取りつぐ仕組みである。

〔ある日の集まり 団地のロウケツ染めサークル〕(34.9.8 夕刊)

東京、中央線沿線の一角に、住宅公団荻窪団地がひろびろと手足をのばしている。戸数にして八百五十余り、三千人に近い人びとが住むこの団地では主婦たちを中心にしたサークル活動がとても活発だ。

コーラス、洋裁、生け花、書道、社交ダンスと、この団地にはたくさんのサークルがある。カギ一つで他人との生活を絶ちきれるアパート様式が、こうした活動をさかんにさせているもとなのだろう。

〔“ダンチ” あれこれ〕(35.3.3)

都下をはじめ東京の衛星圏に日本住宅公団のマンモス団地ができはじめてからざっと五年になる。都内の住宅難はぐんと軽くなったが、これら“ベッド・タウン”の方では苦情がふえている。地元市町村にとっては、団地は実入りの少ない“厄介者”。それに“団地族”は心ここにあらずといった調子で地元へ冷淡。日用品、食品なども勤め帰りに都心で買ってくる人が多いから地元商店に金が落ちないとブウブウ。一方、団地族側としてみれば建物や設備が悪いうえ、物価が高い、道路が悪い、とこれまた口を開けば苦情ばかりだ。今年も続々と新しい団地が作られるようだが、ここらあたりで昨今の団地の問題点にスポットをあててみよう。

ゴタゴタ…いずれも畑しかなかったところに、突然近代住宅が建ち並んだわけだから、いろいろな“異変”が起こった。

選挙…選挙のことから団地と地元民が対立しているところもある。

学校…団地族が回りの住民に対して持っている奇妙な優越感が学校の中に持ちこまれる。…ことあるごとにPTAが“勤労奉仕”にかり出されるのも、団地の父兄には頭痛のタネだという。

騒音…工場の夜業で安眠もできぬ

衛生…降れば雨もり 乾けばほこり

不便…団地はガスぶろ、水洗便所と一応文化的だが、建物や設備が悪いので生活上の不便がかずかずあり、つり合いがとれない。

物価…野菜もガスも都内より高い

商店…強力店進出で地元には痛手

自治会…団地のことは団地人の手で — とそれぞれ自治会をつくってマイナスをプラスにしようと努めている。

〔団地の防犯心得 ゆるみ勝ちな警戒心〕(37.12.20)

“没交渉”の暮しにも問題

東京都下北多摩郡ひばりヶ丘団地で十七日、留守居の老婆が殺されるという事件がおこりました。…独立した住居、没交渉でいられる生活様式、それが大きな魅力の団地生活ですが、今度の事件はこんな従来のあり方に大きい疑問を投げかけたようです。

[あぶない“ヒナダン” 都も宅地造成の規制強める] (38.4.15 夕刊)

地震にも雨にも弱い 手抜きが多い防止工事

宅地難のおり、東京都内ではガケや丘陵をけずったり、盛り土したりして宅地を造成する業者がふえているが、ガケくずれ防止の擁壁が粗雑で危険な住宅地が非常に多く、大雨でも続けばガケくずれなどの事故が起きかねない。

宅地造成の危険な擁壁が問題になっているのは、板橋区、世田谷区、都下の三多摩など、ガケ地や丘陵地で盛んに宅地が作られている地区。

[団地ラッシュ、悩む清瀬町] (39.4.16)

予算を食う小・中校の建築

結核専門病院の多い町として知られる清瀬町で、いま住宅団地の建設が盛んだ。

同町は西武池袋線をはさんで南側が雑木林にかこまれた病院街、北側が東京都では唯一の水田耕作の盛んな純農村地区。ひっそりした町だったが、この“団地ラッシュ”で町は急に活気づいている。

[都営団地にやっと浴場] (39.8.3)

調布市の都営緑ヶ丘団地に、このほど団地では珍しい鉄筋コンクリートの浴場がお目見えした。これまで、同団地には各戸とも浴室がないため、わざわざ遠出したり、行水でがまんしたり、入浴問題では頭を痛めていた。待望の浴場とあって「これでやっと気軽に汗を流せる」と、みんな大喜びだ。井戸水を使うので、水不足でも休業することはないらしい —。

四業者の共同経営で、…料金はおとな二十三円、子ども十五円、乳児八円と町のおフロ並みだ。午後二時の開店から夕方までは、老人や子ども連れの主婦が多く、また夜間はユカタがけの“亭主族”がひっきりなしにつめかけて、団地内はちょっとした下町気分。

[団地から青空駐車締出し] (39.10.31)

いま各地の団地内には「駐車場ができるまで」という公団への特例で駐車している車にまじって、先着順や抽選にもれて駐車場を持たない車や、その後買った車が相当数ひしめいている。これらの不法駐車組を、団地内だからという理由だけで、いつまでも放って置けないところから、最初の五十六団地の駐車場が完成する十二月ごろから締出し、団地の外に、自分の車庫を持たせることになったもの。

団地の自家用車族は、こんごますます増加すると予想されている。駐車場の必要度も、それだけ深刻になるわけだが、“住宅”公団が車庫の世話までする必要があるか — と、同公団管理課はいまのところ強気の構えである。

[アパート防犯術] (40.3.14)

1階は特にご用心 初歩の3点…必ず玄関をしめる・のぞき窓から確認・用心グサリを活用

アパートには、これまでも、一般住宅街にくらべて三倍ちかい犯罪が発生していますが、今後もふえるものとみられており、警察、居住者、アパート設計者らが一体となった防犯体制が望まれています。

屋内犯罪のほかに、団地周辺でのひったくりや婦女暴行もふえていますので、地もとの協力によ

る外灯の設置、そのほかの防犯体制が必要ですし、もし不幸にしていって入られたら、ヘタに騒がず、金品を持ち帰らせるなどして、犯人の人相などをよくおぼえ、事後は110番に急報してほしい、と警視庁防犯課ではいっています。

〔新住宅難時代（7） “お荷物”の団地〕（40.3.14）

「地元は破産する」 大きすぎる環境整備費

高蔵寺ニュータウンは、住宅公団の他の団地の水準をはるかに抜く住み心地になる。…しかしこのニュータウンの暮しを楽しむのは、ほとんどが名古屋に通勤する“よそのもの”だ。…「よそのもの」の暮しをよくするために、なぜおれたちが犠牲にならなくてはならないんだ」と市民が怒るのもあたり前だ。

春日井市ほど深刻ではないが、団地をもつ大都市周辺の市の悩みはみな同じ。

〔宅地造成で消えるハス田〕（40.4.4）

郡内で生産するハスの約九〇％を占めている江戸川区のハス栽培農家は、宅地ブームに追われ地価の安い千葉県へ農地を買替え、自宅から自家用車で新しいハス田へ通勤している。このような“通勤農家”が目につきはじめたのは三年ほど前。…ハス田のまわりに工場や住宅が建ち、栽培条件が悪くなった。それに宅地用に売って、その代金の一部で地価の安い千葉県行徳市や浦安などの農地を買った方が、はるかに広い農地を入手できる。また収穫率もよいので、今後ますますこの傾向は強まりそうだという。

千葉県内へ進出したハス田は区内とほぼ同じくらいの面積で、通勤農家の人たちは自家用小型トラックに農具を積み、弁当持参で朝八時ごろ“出勤”夕方五時ごろ帰宅している。

〔分譲宅地 初の公開調査〕（40.4.26）

建築できぬ特売地 悪徳業者に出頭求める

土地をめぐるオトリ広告や誇大広告がアトを絶たず、切実な訴えがあいついでいる — と、東京都住宅局と公正取引委員会事務局では二十五日、初の「公開宅地分譲地調査班」を船橋、浦和、原町田、国立などの都郊外区域にくり出した。…広告や宣伝とあまりにかけ離れた分譲地の実情に「想像以上だ」と調査班員も深刻な表情。

〔土地はだれのものか（6） 呼値の魔術〕（40.5.1）

新駅できて数百倍 買手もつかぬ住宅地

駅はできたが、付近一帯は思惑による地価の暴騰で買手がつかず、荒地のまま。駅には人影もまばらだ＝東京・国電東小金井駅前

〔土地成金の農家が新商売〕（40.5.31）

練馬 プールや鉄筋のフロ屋

宅地ブームで、練馬区の農家は転業ばやり。土地を売って、アパートやガソリン・スタンドの経営など、さまざまだが、こんどは、私設プールや、鉄筋フロ屋まで飛出した。

田柄町二丁目、川越街道近くの雑木林の中に、真白な五十メートルプール。車も百二十台駐車でき、レストラン、コーヒーショップもある。…田柄町一丁目のムギ畑の中に、ぽつんと鉄筋の公衆浴場。

[民間の団地もお断り] (40.8.24)

千葉県知事 ベッドタウンに反発

今度の民間団地拒否も公共施設に対する市町村負担が過重になることと、もっぱら東京へ通勤する非生産的な人口流入を防ぐことが理由。

[東京の二十年 (14) 団地族] (40.8.24)

革新系の有力な票田

三十三年「団地族」という言葉が生れた。鳥の巣箱のような町なかの小さな団地からニュータウンの建設へ。郊外の雑木林や田んぼに学校、診療所、商店街を備えたマンモス団地がニョキニョキと出現する。

団地の商店のなかで「当てがはずれた」と、なげくのが米屋さん。…「米を食べないのが団地族なんです」と、こぼしながら店先にカン詰やジュースをならべている。

その米屋さんよりもっと悩みが深刻なのが、地元の保守政治家たちだ。…マンモス団地地帯の三多摩は、すでに、革新地盤と化した。…かくて、保守政党は団地を恐れる。

4 『讀賣新聞』の記事から

[ねらわれる団地アパート] (34.3.31 夕刊)

都内のアパートで最近、窃盗被害が急にふえてきた。

アパートの被害がこんなに増える原因について①出入口から自由に入れるため各部屋を物色できる②洗たく物をほしたりちょっとした買物に出るときカギをしない家が多い③ドアにカギをすれば大丈夫だという安心感がある④このためテラスの窓ガラスを破ったり、郵便受けや牛乳入れからカギをはずせば侵入できる⑤隣り同士が無関心だなどがあげられる。

[団地は自衛する] (34.11.4 夕刊)

目に余る“カミナリ族” 対策はお手あげ、良識をまつ

猛スピードでつっ走るカミカゼ・トラックやカミナリ・オートバイが最近アパート群の道路にも、もぐりこみ始めた。このため居住者たちは騒音に悩まされ、団地内での交通事故も目立ってきている。なかにはクイを団地の入口に打ちつけ車止めの“自衛手段”を講じているところもあるが、逆に「クイを取ってくれ」と陳情する自家用車族もあらわれる有様。こうした苦情を関係者も簡単に解決できず、対策にアタマを痛めている。

[戸別配達はしません] (34.12.5 夕刊)

一階に郵便箱 高層アパート対策

郵政省では最近急激に増えている四階以上の高層アパートへの郵便配達が階段の昇降など配達人に過重な労働をさせることになると頭を痛めていたが、その解決策として一括した郵便受箱を設ける方針をきめ、このほど全国都道府県関係局長、住宅公団、住宅協会に協力方を要請した。

[“団地電話”の第一号] (35.4.2 夕刊)

荻窪でけさから開通

大都市とその周辺区の高層アパートなど大住宅団地の電話事情を緩和するため、電電公社ではア

パート用共同電話の研究を進めていたがその第一号が杉並区荻窪の公団住宅で二日から開通した。…なお、住宅公団世田谷区西経堂団地にも十日から第二号がサービスを開始するなど高層アパート街に続々おめみえする。

[高層アパートに集団郵便受け] (35.8.1)

大田区にお目見え 配達の苦勞減らす 費用は郵政省持ち
高層アパートがふえて郵便物の配達人はたいへんな苦勞。

[アパート住まいを楽しく] (36.2.2)

家財道具は最少に すべて淡い色彩が落ち着く

団地や公社住宅といったスマートな鉄筋のアパート群は年々ふえ、団地生活者だけでも全国で約五十万人といわれています。合理的なアパート生活はいま若い人たちにとって大きな魅力となっていますが、そこにも問題はいろいろとあるようです。

また家具を求めるときも、ゆきあたりばったりでなく、おく場所や部屋の大きさも考えた上で選ぶことが大切です。こんな意味でもアパート生活では高さや広さを自由に変えられるユニット家具が便利です。色もできるだけ白壁と強い対比をつくらぬような淡い色彩にする方が目を休めることになります。

[団地っ子の環境と性格] (36.2.7)

単調で個性なくす まるで“小さなおとな”の感じ

“団地っ子”はおしゃまだ、ヒマに恵まれたおかあさんから勉強ばかりせめたてられるなどと、いろいろわさをされがちです。団地のおかあさんたちにいわせると「それは都会の一般の傾向なのとにかく団地マダム、団地っ子と色目で見られがちで」と迷惑そう。しかし何百何千の、しかも収入も職業も似たりよったりの世帯が同じ規格の建て物に住んでいれば、いろいろと考えさせられる点が出てくるのは当然かもしれません。それは都会地に住む多くのおかあさんたちにとってもよそごとではなさそうです。

<女性のこえ> [本当にうるさい団地のおしゃべり] (36.2.7)

他人さまの家庭内のことまで、とやかくおしゃべりすることだけはおやめになるべきだと思います。つい先日のことです。お隣のKさんご一家は、ついに団地の雑音に耐えかねて静かな場所へと引っこしてゆきました。(東京都北多摩郡・TI・42)

<女性のこえ> [団地生活は快適です] (36.4.5)

一番いいと感じている点は、カギをかけて気軽にどこへでも行けること、比較的若い人たちが多いためか、お互いの生活を大切にするので、ムダなおつきあいはしなくてすむこと等々。わたくしには快適な生活です。…他の人がなんといおうと、自分たちの家庭生活を大切にする努力をまず第一に、近所づきあいは二の次で、ほどほどにしていればいいものだと思います。自分の生活に自信を持っていれば、お隣が何をしようと、何を買おうと、どこへ行こうと気にすることは全くないではありませんか。(武蔵野市・26・主婦)

[レジャーじょうず (24) ママさん・コーラス] (36.5.24)

団地に明るい歌ごえ ふだん着に赤ちゃんつれて

東京の西郊、武蔵野の緑に囲まれたマンモス団地ひばりヶ丘—その一角から毎週火曜日の午後、おかあさんたちの明るいコーラスの歌声がひびいてきます。…ママさん・コーラスは変化の少ない団地生活を楽しくする上に大きな一役を買ったわけです。

[団地の防犯はこうして] (36.11.10)

ドアチェーンはぜひ 防犯上の近所づきあいも

団地の生活がドア一つで外とへだてた特殊な様式になっているとか、団地自体が郊外のさびしいところにポツンとつくられているなど、その原因もいろいろ考えられ防犯上の問題点も多いのですが、そうした犯罪を未然に防ぐためには、やはり住んでいる人々、とくに留守をあずかる主婦の日ごろの心がけが大切だろうと思います。…都市のベッドタウンはますます郊外に伸びていくので一般の家庭にも共通する点も少なくないと思います…

<気流> [粗雑な公団住宅の建て物] (38.3.19)

私は三十回の落選後やっと当選し、喜び勇んで入居したが、鉄筋建て物の外部、内部とも工事の粗雑なものには、がっかりさせられた。上の階の水洗便所の水がもれ、天井のしっくい、はがれて落ちてくる。目下、工事中の建て物をみても、鉄筋とは名のみで、見るがらにたよりなげな細い鉄棒にコンクリートが打たれている。もし大地震でもあったさい、だいじょうぶかと心配にさえなる。(船橋市・会社員・31)

<赤でんわ> [団地夫人と農家の女性] (38.5.16)

田畑や松林が、次々と宅地になり、そこに新しい団地が建つと、東京から続々と、多勢の人たちが移り住んでくる。いままで、素朴な農家の人々が、静かな生活をいとなんでいたところに、パッと花が咲いたように、はでな色彩を帯びた生活が雑居するようになった。新しい団地族には、若い人たちが多いせいもあり、新旧両様の生活様式は、いちじるしい対照を示している。

都会から郊外への移住は、これから先もますます盛んになろう。こんごも二つの女性のグループの接触が、いろいろと問題をかもし出すに違いないが、どうか仲よく、心を合わせていただきたいものだ。(埼玉県入間郡・I・T生・34・公務員)

[団地マダムとパートタイマー] (39.9.22)

半数以上が希望 “学費を補助したい” 墨田職安の実態調査

働く目的①学費補助が三十六人で最高、つぎに②物品購入二十八人③余暇活用二十人④その他十二人で、そのほか特技活用、医療補助などが働く目的としてあげられている。

[団地の二階に“中学生強盗”] (40.2.18)

卒業を前に同級生二人組 主婦にサルぐつわ 足立 魔の早わざ金奪う
変装、仮の呼び名も

[カギッ子とともに] (40.6.1)

東京・桜堤団地で保育に励む岡さん さながら大家族
8年間の教職経験を生かして 12人の子どもを世話

[郊外住宅に白昼強盗] (40.6.19 夕刊)

工事人装い主婦しばる 久留米

[田無署の] 調べによると、…志木街道から約百メートルはいった麦畑に囲まれた一軒家。隣には、建築中の住宅五軒があり、これからの新興住宅地。

[団地に“セールスマン強盗”川崎百合ヶ丘] (40.6.26)

巧みに侵入、主婦縛る 「子供殺すぞ」とおどし ガス社員装い勧誘

[ルポ 団地マダムの「優雅な生活」] (40.10.1)

“実益”に結ぶチエ 家庭からサークルへ 人間関係の壁破って

東京・杉並区のある団地。秋の日ざしをいっぱいに浴びた午後、五、六人の奥さんたちが、Aさん方に集まって、木目込み人形製作に精を出していました。

団地夫人たちは、自分の足でしっかりと歩きはじめています。…“優雅な生活”というのは、自分たちのできる範囲で、ささやかなしあわせを楽しむということなのではないでしょうか。

[すまい 2DKの来客 マナーを守ろう] (40.11.5)

団地に住む奥さん方に「2DK夫人」という名前をつけた人がいた。部屋が二つにダイニングキッチンという“平均的団地”の住居を表徴したわけだが、近ごろ「ダイニングキッチンはいいけれど、お客さまに台所をのぞかれないように仕切りをしたい」という人が多い。

それなりのマナーがぼつぼつできあがってもよいのではないか。

せまいなら、せまいなりに楽しくする暮らしのテクニックは西洋だけのものではなく、日本にもあったはずである。(建築家・高田秀三)

[つどいは楽し “売り手”に出た団地マダム] (40.12.4)

トイレット・ペーパーとワカメの売り出し。妙な取りあわせだが、ここ、横浜市・明神台団地の主婦たちには、毎月一度のおなじみ風景。

実は、売り手も、この団地の主婦。…明神台団地・主婦の会の販売グループの人たち。ヒマはあるけれど、おカネがたりない。内職も、個人でやるより、団結したほうが仕事もとれやすいし、賃金もたたかれないはず — こんな声があつまって、うまれた内職グループである。

[住まい アンバランス (1)] (40.11.15 夕刊)

団地ができてから十年たった。団地族、団地夫人、団地っ子…いくつかの流行語を生みながら、…日本住宅公団をはじめ、住宅公社や各地方公共団体などの団地が、ぞくぞく誕生している。しかし、それでもなお住宅難は解消されていない。

“76回目”やっと当選 「ツイてない」ではすまぬ

[住まい アンバランス (3)] (40.11.17 夕刊)

ベランダに急造浴室 間取りが狭い。かくて、大半の家がベランダをつぶしてフロ場をつくった

り、小部屋を増築する（都営戸山アパート）

〔住まい アンバランス（４）〕（４０．１１．２２ 夕刊）

「２ＤＫ一家」の悩み

〔住まい アンバランス（２２）〕（４０．１２．２８ 夕刊）

セチ辛い土地の利用 駅前広場は、不動産業者の思惑買いしめで草ぼうぼう。庶民の宅地は郊外へ追いやられるばかり＝中央線東小金井駅周辺。

〔住まい アンバランス（２３）〕（４０．１２．３１）

“はみ出した都民” まるで開拓者の暮らし

ある郊外住宅…畑のなかにぽっかり“出現”する住宅。建設テンポは区部より郊外地へ、年ごとに高まる（埼玉県朝霞町で）

悪徳業者…売ってしまえば — 近県への人口流出は年を追って高まるばかり。庶民の資力では地価の高い都内に住居を建てることなどユメに近いのが、現実だからだ。

受け入れ体制…団地は“お荷物” いわば、財源の少ない地方都市にとって、団地は＜金ばかりくう、やっかいなお荷物＞というわけだ。団地ですら、こうなのだから、一般住宅の“流入”に対する“反感”は、むろん、これを上まわる。

５ おわりに

近代化のメルクマールとして、わが国の高度成長期におけるアパート団地・ニュータウン・郊外住宅に着目して、これらに関連する記事を新聞３紙から抽出したのであるが、その内容については価値的に、ポジティブなものからニュートラルなもの、ネガティブなものと同様であった。まさに、「新

表１ 新聞記事の年代別掲載数

	毎日新聞	朝日新聞	読売新聞	合計（％）
昭和 31年	0（0）	0（0）	－（ ）	0（0）
32年	28（26）	2（10）	－（ ）	30（20）
33年	5（5）	0（0）	0（0）	5（3）
34年	3（3）	4（20）	3（12）	10（7）
35年	4（4）	1（5）	2（8）	7（5）
36年	20（19）	0（0）	6（23）	26（17）
37年	1（1）	1（5）	0（0）	2（1）
38年	3（3）	1（5）	2（8）	6（4）
39年	28（26）	3（15）	1（4）	32（21）
40年	15（14）	8（40）	12（46）	35（23）
合計件数（％）	107（101）	20（100）	26（101）	153（101）

－は未調査

表2 新聞3紙に見るジャンル別一覧表

	毎日新聞	朝日新聞	読売新聞	合計 (%)
立地・宅地造成・宅地ブーム	16 (15)	6 (30)	1 (4)	23 (15)
公共施設・設備等	17 (16)	5 (25)	3 (12)	25 (16)
交際・マナー・苦情	23 (21)	2 (10)	6 (23)	31 (20)
サークル・自治会・レジャー・パート	9 (8)	1 (5)	4 (15)	14 (9)
行政 (対応)	4 (4)	2 (10)	1 (4)	7 (5)
衛生 (健康・公害)	5 (5)	1 (5)	1 (4)	7 (5)
犯罪・防犯	4 (4)	2 (10)	5 (19)	11 (7)
団地族・団地っ子	26 (24)	1 (5)	5 (19)	32 (21)
その他	3 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
合計件数 (%)	107 (100)	20 (100)	26 (100)	153 (100)

しきものの摂取は常に抵抗を伴う。経済社会の遅れた部面は、一時的には近代化によつてかえつてその矛盾が激成されるごとくに感ずるかもしれない。…近代化が国民経済の進むべき唯一の方向とするならば、その遂行に伴う負担は国民相互にその力に応じて分け合わねばならない。近代化 — トランスフォーメーション — とは、自らを改造する過程である。その手術は苦痛なしにはすまされない。」(『経済白書 昭和31年度』 pp.42-43) からである。

なお、本稿で取りあげた記事総数は3紙合わせて153件であるが、その $\frac{1}{3}$ が昭和30年代前半に、 $\frac{2}{3}$ がその後半に属するものであった。結果的に昭和39年と40年の掲載数が著しく多くなった(表1参照)。また、記事内容をジャンル別にまとめた表2を見ると、3紙それぞれの視点に特徴のあることがわかる。全体的、高所からの視点が多い『朝日新聞』、生活者の身近な事象を多く扱う『読売新聞』、両者の中間に位置する『毎日新聞』というわけである。しかし、いずれの記事を通して昭和30年代の団地生活や郊外化をメゾ的レベルで理解することが可能である。こうして新聞記事は、すぐれた生活資料といえるのである。

ところで、高度成長は昭和48年まで続いたわけで、40年代の近代化を引き続き検証する作業が残っているが、この課題については後日別稿を期したい。

* 本稿中の引用は、当時の表現をそのまま使用した。

(にしわき かずひこ 生活文化学科第二部助教授・近代文化研究所員助教授)